

ワークショップの目標

- 初任者研修を計画するためのニーズを把握することができる。
- 初任者のニーズに合った支援方法を見つけることができる。
- 初任者のニーズに合った研修の目的・目標を設定することができる。
- 初任者研修の目的・目標に沿ったプログラムを計画することができる。

ワークの手順

1. 自校において、初任者の抱える問題や必要な支援を書き出す。(ワークシート1-①)
2. 1.で書き出した初任者に必要な支援の優先性と責任性を考える。(ワークシート1-②)
3. グループ内でワークシート1の共有をする。
4. 研修で取り扱うニーズを絞り、支援方法を考える。(ワークシート2-①)
5. 研修の目的・目標を設定する。(ワークシート2-②)
6. 具体的に研修計画を立てる。(ワークシート2-③)
7. グループ内でワークシート2の共有をする。
8. 全体での共有する。(発表)

← ワークシート1

1. 自校において、初任者の抱える問題や必要な支援を書き出す。
2. 1.で書き出した初任者に必要な支援の優先性と責任性を考える。

ワークシート2 →

4. 研修で取り扱うニーズを絞り、支援方法を考える。
5. 研修の目的・目標を設定する。
6. 具体的に研修計画を立てる。

ワークのアウトカム

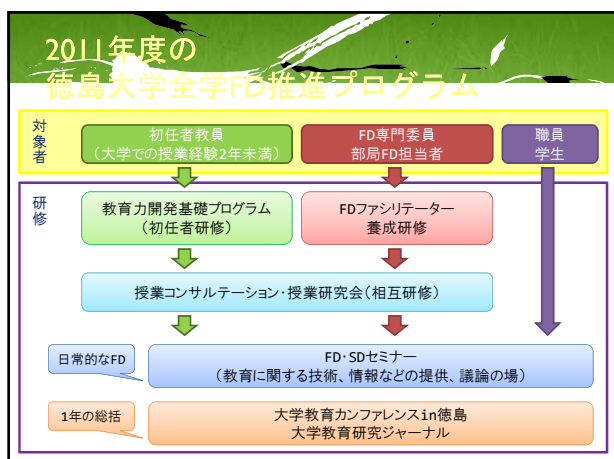
- 個人ワーク→ワークシートの完成
 - 自校における、初任者教員の問題点や、初任者に必要な支援を把握することができる。
 - 問題や支援に対する、具体的な支援方法を考えることができる。
 - 初任者研修の目的・目標を設計することができる。
 - 初任者研修の目的・目標に沿った企画を考えることができる。
- グループ内、全体での共有
 - グループ内での共有を通して、自身の作成したプログラムを異なる視点から見ることによって改良を加えることができる。
 - 全体での共有を通して、他の参加者の考えを知り、自身が作成したプログラムを客観的に見ることで、研修計画の際の多くの視点を持つことができる。

グループで共有1

- 共有の仕方
 - 各自がまとめたワークシートをもとに、**1人2分**程度説明をし、質疑応答を行う。
 - 質疑は、**1人の発表につき1回**、希望者がいない場合は発表者の右の人が質問をする。
- 発表を聞く際に注目するところ
 - 優先度、責任度の設定は適切か？
 - 整理の仕方は適切か？
 - 自分のプログラムの参考になるところはないか？

グループで共有2

- 共有の仕方
 - 各自がまとめたワークシートをもとに、**1人2分**程度説明をし、質疑応答を行う。
 - 質疑は、**1人の発表につき1回**、希望者がいない場合は発表者の右の人が質問をする。
- 発表を聞く際に注目するところ
 - 目的・目標の設定の仕方は適切か？
 - プログラムの設定は、目的・目標に合っているか？
 - 自分のプログラムの参考になるところはないか？



徳島大学の初任者研修

- 参加者
 - 2002年度から合計で180名
- 対象者(2011年度)
 - 学外より、講師または、准教授の採用後2年以内の教員
 - 学内で、助教から講師または、講師から准教授への昇進後2年以内の教員
 - 学部から推薦を受けた者
 - SPOD加盟校の教員
- 2009年度より四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)加盟校教員、希望者を対象とし、名称を「教育力開発基礎プログラム」とした。

年度	参加者人数 (人)
2002	22
2003	18
2004	27
2005	12
2006	8
2007	21
2008	4
2009	17
2010	30
2011	21

初任者研修の目的

- 徳島大学全学FD推進プログラムの活動の理念と活動計画を理解する。
- 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する。
- 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする。
- FD参加者同士の仲間づくりができる。

平成23年度教育力開発基礎プログラム

初任者研修の内容

- アイスブレイク
- ワークショップ:「良い授業・悪い授業」
:「私の授業で大切にしたいこと」
- 講義:①授業設計と評価
②参加型授業
③シラバス・授業計画書の作成
- 個人ワーク:シラバス・授業計画書・教材作成
- 模擬授業、相互評価

平成23年度教育力開発基礎プログラム

初任者研修実施場所

- 2002年度～2007年度
国立淡路青少年交流の家(1泊2日)
- 学外(合宿)
 - 長所:2日間集中してできる、参加者同士の交流ができる
 - 短所:費用がかかる、機材の運搬が大変
- 2008年度～2011年度
徳島大学(2日間)
- 学内(通い)
 - 長所:費用がかからない、機材が揃っている
 - 短所:参加者の交流が少ない、1日だけで、帰る人がある

研修後のフォローアップ

```

graph TD
    A[授業コンサルテーション] --> B[対象教員の授業への参観  
VTR撮影・学生アンケート・撮影担当者による記録]
    B --> C[データ整理・資料作成  
担当者:授業記録、学生アンケートの整理、授業を20分程度に編集し、DVDを作成する。  
対象教員:対象授業のシラバス、その日の授業計画、配布資料]
    C --> D[授業研究会]
    
```

大学教育研究ジャーナル第8号「2010年度徳島大学全学FD推進プログラム実施報告」参考

ニーズ把握の方法

- 誰のニーズを聞きとるか？
 - 初任者教員
 - 先輩教員
 - 職員
 - 学生
- ニーズ把握の方法は？
 - アンケート
 - インタビュー
 - 間接的ニーズ(全国的調査など)
例えば、単位の実質化(学生の授業外学習の少なさ)

実際に企画をする際には、このようにアンケートなどを実施してみると、研修を行う意義をはっきり示すことができる。

ティーチングライフより1

(設問)あなたが理想とする教育活動を進めるうえで、**阻害要因**と思われるものは何ですか？(項目選択、選択制限3つまで)

回答数448名のうち、上位7項目

- 教育や研究以外の学内業務の負担が多い **248名(55%)**
- 多忙で授業の準備時間が不足している **178名(39%)**
- 学生の学力・意欲に問題がある **167名(37%)**
- 授業負担が多い **101名(22%)**
- 教育にあてる経費が少ない **68名(15%)**
- 教育と研究が結びつかない **66名(14%)**
- 受講生が多い **53名(11%)**

ティーチングライフより2

(設問)**教育活動の改善をすすめるうえで**、あなたが考える**有効な改善策**は何だと思いますか？(項目選択、選択制限3つまで)

回答数445名のうち、上位7項目

- 教員の授業負担を減少する **142名(31%)**
- カリキュラムの体系化を行う **111名(25%)**
- 授業準備時間を保障する **97名(22%)**
- TAなどの教育支援体制を強化する **95名(21%)**
- 受講学生の事前学習を促進させる **83名(19%)**
- 施設・設備の改善を行う **82名(18%)**
- 教育方法改善のための財政的支援を行う **63名(14%)**

ティーチングライフより3

(設問)今後**どのような**テーマの**FD活動が必要**だと思いますか？(項目選択、選択制限なし)

回答数445名のうち、上位7項目

- 問題ある学生への対応 **157名(35%)**
- 基本的な教育技術(教授法) **132名(30%)**
- 参加型授業の仕方 **109名(24%)**
- 大人数授業の仕方 **101名(23%)**
- 成績評価の方法 **97名(22%)**
- 外部資金の調達 **92名(21%)**
- e-ラーニング教材作成支援 **91名(20%)**

目的とは

- 目的【purpose】(存在意義)
 - 「なぜこの研修は存在するのか」
 - 「何のためにこのプログラムを学ぶのか」
 - 「なぜこのプログラムを学ぶ必要があるのか」

(例)

- 徳島大学の教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修。
- 初任者研修を実施する上で必要な知識やスキルを身につけ、自校のニーズに合った研修を計画する。

目標とは

- 目標【goal】(到達目標)
 - 主語を学習者にする。
 - 研修終了後にできるようになってほしいことを行動動詞で記述する。
 - 「理解する」、「身につける」のような概念的言葉ではなく、観察可能な行動で表現する。
 - 例えば、「説明する」「記述する」「参加する」「始める」「～することができる」など

(例)

1. 初任者研修を計画するためのニーズを把握することができる。
2. 初任者のニーズに合った支援方法を見つけることができる。
3. 初任者のニーズに合った研修プログラムの目的・目標を設定することができる。
4. 初任者研修の目的・目標に沿ったプログラムを計画することができる。

概要作成

- 研修の評価方法
 - アンケート、業務日誌、意見交換・反省会、追跡調査、フォローアップ研修
- 学習形態
 - 講義、講演、シンポジウム、ワークショップ、公開授業、コンサルテーション、マイクロティーチング
- 場所・実施形態
 - 学内、学外(研修所)
- その他
 - 対象者、講師、広報活動、欠席者対策、異常気象時の対策、食事、記念品など

参考文献

日置善郎ほか(2011) 2010年度徳島大学全学FD推進プログラム実施報告,『大学教育研究ジャーナル』, 8: 172-191
徳島大学教育委員会(2002)『FD推進ハンドブック』
徳島大学FD専門委員会(2008)『徳島大学FDの歴史』, 1-8
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(2008)『FD担当者必携マニュアル』第二版
国立教育政策研究所(2009)『FD実質化のための提案』, 55-57
徳島大学大学開放実践センターホームページ
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/article/0000268.html>
(2011.8.22)